令和７年（２０２５年）１１月号⑤

学校通信

和の光

宝塚市立西谷中学校

ある女子生徒の作文から進路を考える
「一番大切なこと」

２次方程式、それが私は嫌いだ。そして苦手だ。頑張って好きになる。私、数学が少し好きになってきた。自分の力で問題が解けて、そして、友達から「どうして、それ解けたん」と聞かれたりしたら、もう最高って感じ。今までそれが感じられなかったけれど、今は感じられるようになってきた。

今習っているところは「証明」です。私の大嫌いなものです。けれど、一生懸命考えて解きます。分からなかったら先生に聞きます。とことん分かろうとします。そしたら、その事が自分にとって身に付きます。前は●●先生にすら聞けなくて、友達の答えを見るだけで自分から分かろうとしなかった私…。今、それが悔やまれてならない。恥ずかしい…。けれども、それが自分の学力なのだから、例え初歩的な内容のものが分からなくても先生に聞くべきだ。

自分の学力を恥ずかしがってはいけないと思う。そして、自分の学力を知っていなければいけないと思う。私は、もう一度自分の学力・性格・個性などを見直して、私は●●高校でいいのだろうか？と考えたい。今の私にはそれしかできない…。「私立高校専願？なんで…」とか「●●高校ってあほでも行けるのとちがう」とか「いいな～私立高校って」言われても私は別に気にしない。私の学力・性格・個性に合った高校だから。だから私は行く。絶対に行く。頑張って行く。意地でも行く。私は夢を貫く。●●高校に落ちても、私は夢があるから絶対に夢に向かって突っ走る。「夢」それは私を勇気付けてくれて、そして励まし、頑張れるようにしてくれると思う。私は、今後この「夢」を大切にして行き、「夢」に一歩一歩着実に進んで行きたい。

今よく、「あほな高校やからな、あそこは」なんて言葉を聞く。でも、あほな高校でも、自分の「夢」「希望」に向かって行く人の方が私は好きだ。それに、第一、高校にあほな高校、かしこい高校なんてないと思う。私は、見栄で高校に行き、「夢」や「希望」もないところで暮らせない。あほな高校と言われてもいい。馬鹿にされてもいいと思う。自分がそれでいいなら、●●高校はあほやから行きたくない、あそこはかしこいから行きたい…。なんかで決めてもいい事なのか？私はそのことで悩んでいる。今、本当に何がどうなのか分からない。だから、初めから考え直したいと思っている。

今日、寂しいなと思った。それは、悪い高校に行くという事を友達に知られたら、その友達は自分から離れて行くのではないかという意見を読んだからです。どうして、自分の行こうと思う高校を自ら馬鹿にするのだろう？自分がそれでいいと思ったら、人に馬鹿にされても関係ないと思う。もし、本当に友達が遠ざかって行ったのなら、それは本当の友達ではないと思う。私は、ほとんどの子に「私は●●高校の専願を目指している」と言っている。そして、みんなに自分の夢を聞いてもらった。「●●さんならいいね～。精神年齢がばれないから…」と馬鹿にされたけれど…。でも、その子は心から最後に「頑張れな」って言ってくれた。私が一番友達だと思っている子は、「本屋さんで、●●高校の入試問題を売っていたで、その中にあれが出てたで…」と教えてくれたり、私の夢に対して積極的に力を貸してくれたりする。それが本当の友達だと思う。

何かみんなの高校に対する気持ちとだいぶ異なっている。私の考えは間違っているのだろうか。全然分からない。でも、私は「高校」について逃げないで考えて行きたいです。なぜなら、義務ではなくなって自分の力で、何でもやっていかなければならないから…。

上記の作文は、ある中学３年生の女子生徒が進路選択時の１１月末頃に書いたものです。もう、何年も前のものですが、「自らの学力」「進路選択時の悩み」など素直な気持ちが綴られています。私は、中学３年生を担任した時には必ずこの作文を紹介して、クラスの生徒たちから意見を聞いて、「共に励まし、支え合いながら進路を実現しよう」と呼びかけてきました。下記に、私が担任していた生徒の感想を紹介します。

◆私も同じような考えだった。見栄だけで難しい高校に入っても、周りからは「すごいね」「かしこいね」とか言われるけれど、自分のやりたいことと合っていなかったら、無駄な３年間になると思うし、親にもそう言われた。どこの高校に行っても、周りが遊んでいても、自分をしっかり持っていれば大丈夫だと思う。クラスのみんなが難しい（偏差値の高い）高校に行こうと焦っている。私は無理して行くつもりはないけれど、周りに流されることなく、自分の考えを持っていけばそれでいいと思っている。（女子の感想）

◆「夢」って大切やと思う。今、行きたい高校はあるけれど、別にその高校以外に進学しても、私がしたい仕事に就くことはできる。なので、私は「夢」に支えてもらっている状態。落ちてもいいや～って思えるのは、先にやりたいことが見つかっているから。どこの高校に進学することになっても、絶対に勉強したるって意識がある。（女子の感想）

◆私は、この作文と同感だ。「あそこの高校は、馬鹿・不良が多い」とか言う残念な人がいる。要は、自分がそれに染まらなければいいこと。周りのせいにするような人は、結局どこの高校に進学しても、自分が頑張らないことを他人の責任にするだけ。（男子の感想）

さて、この作文・感想を通してみなさんは「進路」についてどのように感じましたか。３年生には、これから進路選択に向けた取り組みが進んで行きます。今一度、自分の現状や進路を見つめ直す機会をつくって欲しいと思います。

校長　筒井　啓介

■「やっちゃえ！西谷 Day」大成功です！！　その２（吹奏楽部定期演奏会）

ごあいさつ

宝塚市立西谷中学校
校長　筒井　啓介

晩秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本日は、第１８回宝塚市立西谷中学校吹奏楽部定期演奏会の開催に際して、多数の保護者・地域の皆様方にご来場いただき、盛大に開催できますこと大変嬉しく思います。これも、日頃からの保護者・吹奏楽部の先輩、地域の皆様の本校吹奏楽部に対するご理解・ご支援の賜だと心よりお礼申し上げます。

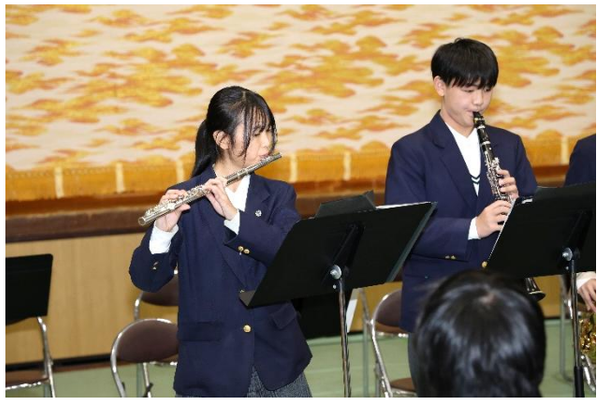
私は３年前に本校に着任しましたが、吹奏楽部は３年生が１名、２年生が２名の合計３名で部の存続が危ぶまれる状態でした。しかし、顧問の先生と３名の部員が心を一つにして、部員の勧誘に取り組みました。その甲斐もあって現在は１３名という西谷中で最大の部員数を誇るに至りました。私は、そのような吹奏楽部の皆さんの姿に大変心を打たれました。

部員数が１３名になり、演奏する楽器のパートも少し増え、曲に深みを感じることができるようになってきました。また、吹奏楽部の活動は校内に限らず、地域の行事や様々なコンクールに出演するようにまでなりました。これも部員と顧問の先生の吹奏楽にかける熱意の成果だと感じています。

今日の演奏会では、日々積み上げてきた練習の成果を発揮できるように頑張ります。また、３年生については今日の演奏会で引退となりますが、１・２年生が西谷中吹奏楽部のよき伝統を受け継ぎ、これからも保護者・吹奏楽部の先輩・地域の皆様に愛され、活躍する吹奏楽部であり続けるよう練習に励んでまいります。

それでは、会場におられる皆様に感謝の気持ちをこめて演奏しますので、西谷の豊かな秋、芸術の秋を感じながら、最後までごゆっくりとお楽しみください。

2025 年 11 月 8 日



１３名の部員が心を一つにして演奏披露